

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（島根2号機（380））
2. 日時：令和3年2月4日 13時30分～15時10分
3. 場所：原子力規制庁 9階D会議室（TV会議システムを利用）
4. 出席者（・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

新基準適合性審査チーム

名倉安全管理調査官、江寄企画調査官、千明主任安全審査官、
服部主任安全審査官、照井安全審査官、日南川技術参与

事業者：

中国電力株式会社 山田常務執行役員 電源事業本部 部長（電源土木）
他11名

5. 要旨

- (1) 中国電力株式会社から、島根原子力発電所2号炉の設置許可基準規則等への適合性のうち、「第43条 重大事故等対処設備、重大事故等対策における共通事項等」について、2月3日の提出資料に基づき説明があった。
- (2) 原子力規制庁から、主に以下の点について説明等を求めた。

【保管場所及びアクセスルート】

才津谷土捨場の斜面安定性評価について、2次元浸透流解析の実施断面が斜面安定性評価の実施断面と異なる理由を詳細に説明すること。評価対象断面から除外した - ' 斜面について、評価対象斜面の - ' と同等の選定評価となることから、評価対象断面に追加選定する必要性を再検討し、必要に応じて評価結果を説明すること。

抑止杭を設置する理由について、地盤の不確かさを考慮したすべり安全率が1.0を下回ることから、保管場所及びアクセスルートの防護上必要な施設であることが明確となるように説明すること。

すべり安全率が1.2を下回る斜面について、地盤の不確かさを踏まえた安全性確保の観点から、すべり安全率の向上策を詳細設計段階で検討することが明確となるように説明すること。

抑止杭間の中抜けを想定した解析的検討について、詳細設計段階では地盤の3次元的な分布状況を考慮して行うことを説明すること。

設置予定の地中構造物を埋戻土としてモデル化したすべり安定性評

価について、地中構造物を通るすべり面が発生しないことを考慮して説明すること。

引用文献（最新斜面・土留め技術総覧、斜面崩壊抑止杭に関する模型実験）について、対象となる箇所をまとめ資料に添付するとともに引用文献の適用性を説明すること。

(3) 中国電力株式会社から、本日説明等を求められた内容について了解した旨の回答があった。

6. その他

関係資料：なし